

感震ブレーカーアダプター

ヤモリ【GV-SB1】

取付説明書

株式会社リンテック21

【事前確認】

まず箱よりヤモリを取り出して下さい。

本体+アルコールパッドが同梱されています。



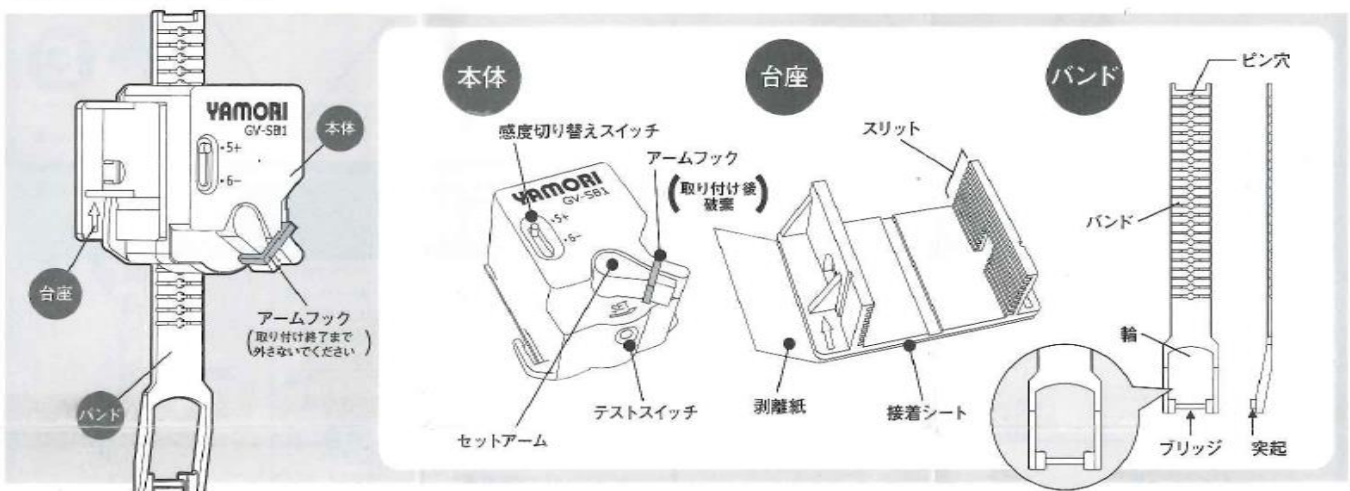
ヤモリ本体

アームフック(赤色)

バンド

アルコールパッド
(取り付け箇所の清掃に使用)

各部の名称



製品の構成

- 本体: 1個 (構成: 本体、台座、バンド、アームフック 各1個)
- アルコールパッド: 1枚
- 取扱説明書(本書): 1部 ※開梱したら構成品をご確認ください。

お客様にご用意いただく物

- はさみ (取り付けの際にバンドが長い場合、カットする為に使用)

【注意事項】（必ずお読みください）

注意(1) **赤いフック(アームフック)** は取り付け完了まで外さないで下さい。

注意(2) 取り付け位置確定後、必ず接着面を掃除して下さい。(添付アルコールパッド使用)

注意(3) アルコールパッドで取り付け箇所を掃除後、必ず乾燥(2～3分程度)させて下さい。

注意(4) パソコン、録画機器、炊飯器等電機製品の電源が切れている事を確認して下さい。

注意(5) 明るい時間帯(昼)に作業して下さい。(テスト時ブレーカーを落とします。)

注意(6) ホームセキュリティにご加入の場合、停電になる事を事前に警備会社へご連絡下さい。
(事前通知しない場合、緊急出動がかかり別途費用が発生する場合がございます。)

注意(7) ご自宅内に人工呼吸器などの生命維持に関わる医療器具が設置されている場合は
医療器具補助電源が確実に動作する事を御確認の上、取り付けして下さい。

● よくある質問

◇ **セットレバーがセット場所に固定できない。レバーがかからない。**

ヤモリは垂直な状態でなければセットアームが固定できない構造となっております。
水平、斜め、逆さまの状態では固定できませんが、それで正常です。

◇ **ヤモリはどこにつけるの？**

ヤモリは基本的に、主幹の漏電ブレーカーへの取り付けを推奨しております。
そこが難しい場合、メインのアンペアブレーカーへの取り付けでも構いません。
取り付け場所は、ブレーカースイッチの上か下になります。
取り付け易いポイントを選んで作業してください。

※製品を箱から出した状態では、スイッチの上に取り付ける形になっております。
スイッチの下へ取り付けの場合は、バンドの向きを変更する必要があります。
(6ページをご参照下さい。)

※埋込タイプのスイッチの場合、台座の調整が必要です。
(7ページをご参照下さい。)

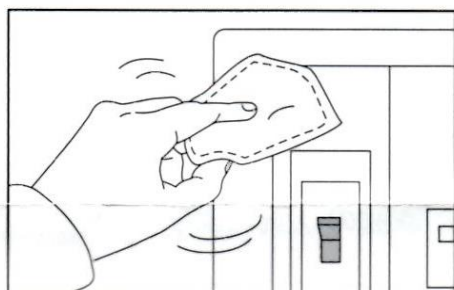
● 備えの必要性

◇大地震により感震ブレーカーが作動すると、ご自宅の電源が全て落ち、電気も消えてしまいます。
また、台風・事故などその他の災害でも停電は起こります。
常日頃からそのような災害を想定し、懐中電灯や災害用常備灯などの照明器具、電池式ラヂオ、
その他防災用品を併せてご準備いただきます様お願い致します。

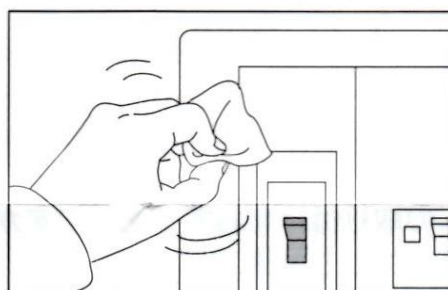
【基本取付方法】

① 貼り付ける場所の清掃

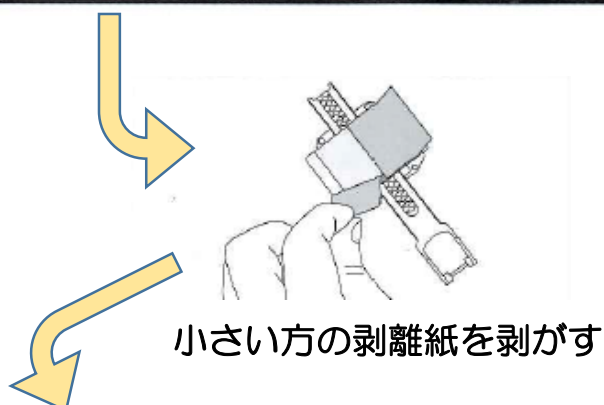
接着する位置が決まったら、乾いた布でふいて、ホコリを取り除きます。
付属のアルコールパッドを使い接着部分をきれいにします。
※アルコールが乾くまでは貼り付けないでください。



布で軽く拭く



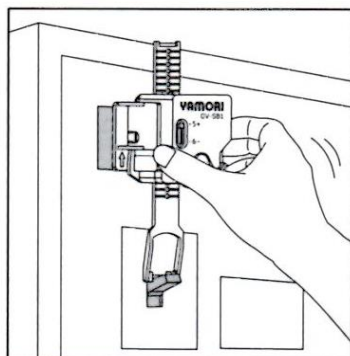
アルコールパッドで仕上げ



② 仮固定

バンドを目安にし、目で見てもほぼ垂直になるように手で持ちます。バンドのブリッジをブレーカーのレバーに軽く押しあてて本体を分電盤に軽く押しつけます。

※突出型の場合、埋込型の場合の取り付け方は、「取り付け例」をご参照ください。

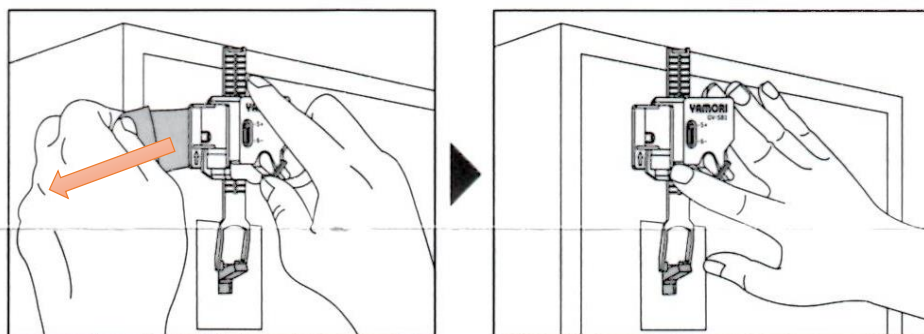


チェックポイント

- バンドはほぼ垂直ですか？
- レバー突出型の場合、バンドのブリッジがレバーにあたっていますか？
- レバー埋込型の場合、本体が台座の最下段のスリットに入っていますか？
バンドの突起がくぼみに入って、レバーにあたっていますか？
- チェックの結果修正が必要な場合、仮固定をはがしてやり直してください。

③ 本固定

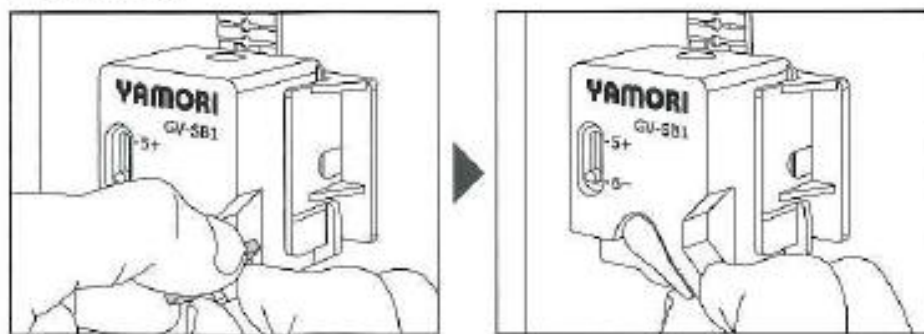
外に出ている剥離紙を外側へ引きながらはがします。本体の中央部を5回ほど強く分電盤の方向に押してください。



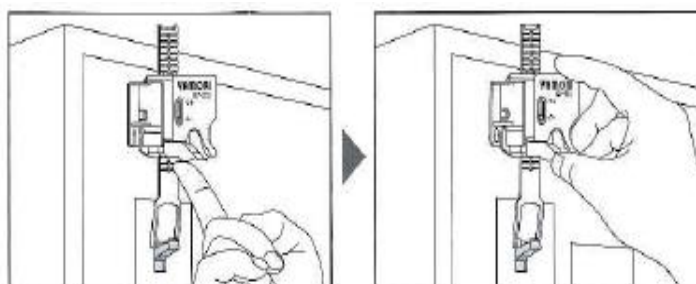
大きい剥離紙左へ抜き取る

④ アームフックの取り外し

右手でセットアームの先端を軽くつまみ、左手でアームフックを手前方向に引いて外します。右手はセットアームを保持したまま、さらに強くつまみセットします。



⑤ 動作テスト



赤いテストスイッチを押す

セット完了

【バンド向き変更方法】

①ヤモリと台座をスライドさせて
分離させます

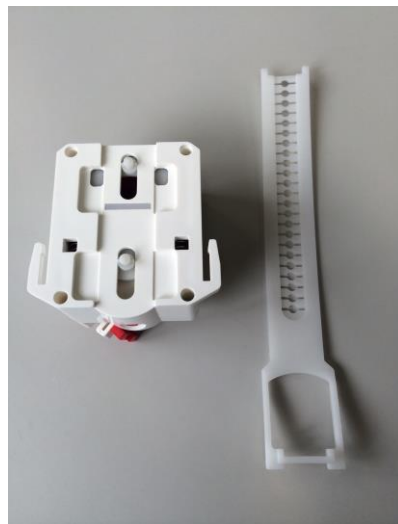


(下方向へ本体をずらす)

②本体を裏返します



③バンドを外します。



④バンドを上下逆に付け替えます。



⑤本体を台座へ戻します。



(今度は下から上へ差し込む形で)

⑥準備完了です。



※ 取付イメージ画像



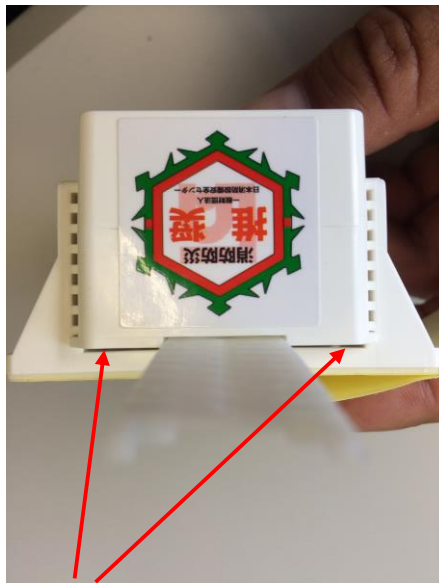
● バンドの長さ、本体と台座の高さ等は、
分電盤の形状に合わせ、調整をお願いします。

【埋込型スイッチへの取付方法】

①台座と本体をスライドさせて外してください。

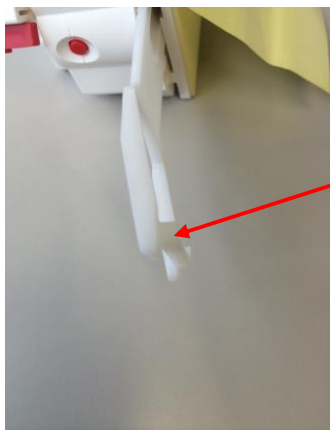


②台座の一番下のスリットへヤモリ本体を取り付け直してください。



この部分です。

③矢印部分の突起をスイッチへ入れ込んで位置合わせを実施してください。



この部分です



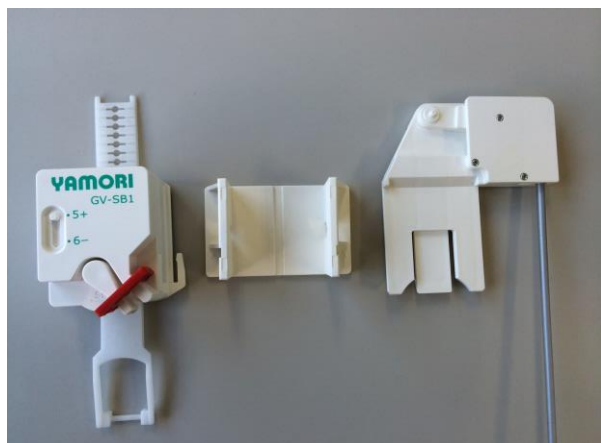
④位置合わせ後、両面接着にて固定して下さい。



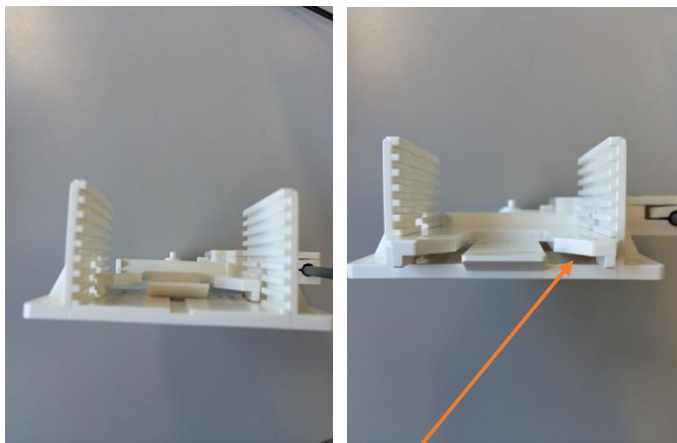
●埋込型スイッチの場合も、下側に設置の際はバンドを一度外し、上下逆に付け替えてください。
(6ページ参照)

【ヤモリ・デ・リモート セッティング方法】

- ①ヤモリ本体と台座を分離し
ヤモリ・デ・リモートを準備します。



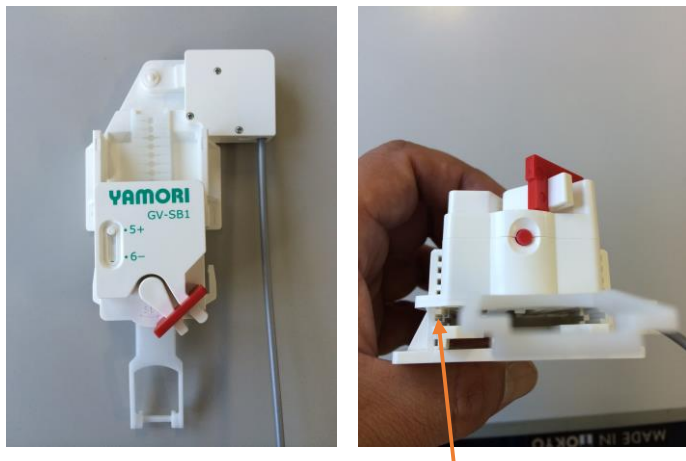
- ②台座の下から2番目のスリットに
リモートを差し込みます。



下から2段目のスリットへ

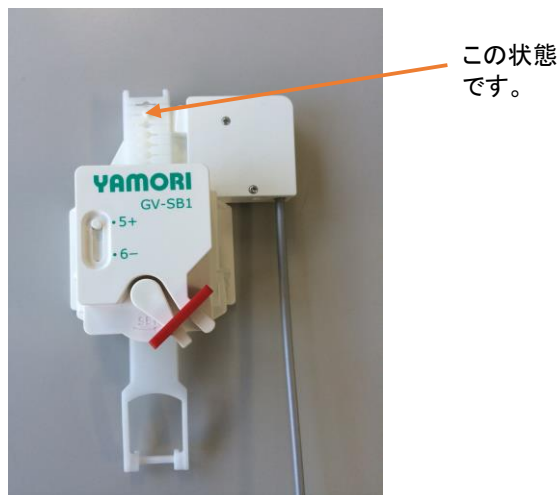
この状態まで差し込んで下さい。
(カチッというまで)

- ③台座の下から4段目のスリットに
ヤモリ本体を差し込みます。



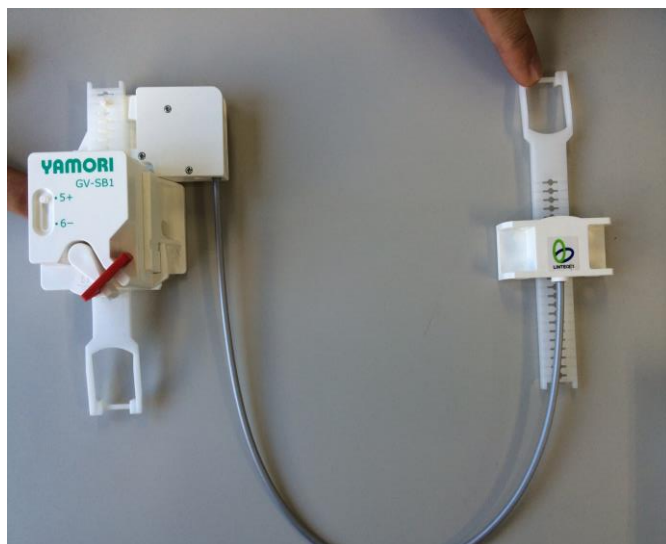
下から4段目のスリットへ

- ④ヤモリ本体のバンド上から2個目の穴に
リモートの突起を入れ込んで下さい。



この状態
です。

【参考】完成図



【取付事例画像】



【取付不可(困難)例】

例① スイッチが堅い



河村電器産業製は堅い傾向があります。
パワーヤモリ(別売)使用で設置可能です。
また、分電盤のはめ合わせパネルが動く場合には、
画像のようにテープで固定する事で対応可能です。

例② スイッチストロークが長い



パワーヤモリ(別売)使用で設置可能です。

例③ スイッチが堅く幅が広い



ブレーカーの上部に取付する事ができれば、
パワーヤモリ(別売)使用で設置可能です。

例④ ブレーカーの容量が大きい(75A、100A等)



パワーヤモリ(別売)使用で設置可能です。

例⑤ 開閉器タイプ



こちらの機器へは設置はできません。
分電盤への交換をお勧めします。

例⑥ 金属性蓋観音開き分電盤(ふたが閉まらない)



蓋と枠を加工し、ヤモリ・デ・リモート(別売)使用で設置可能です。
ただし、金属製の蓋や枠は加工が難しく、電気業者等に依頼する
事をお勧めします。

例⑥ カマボコ型(表面が湾曲している)



ゆるい湾曲の場合、ブレーカースイッチにバンドがかかればほぼ問題ありません。
ただ、スイッチの上に取り付けると、曲線度合いにより稀にバンドが滑ってスイッチが落ちきらない
場合がございます。そのような場合はスイッチの下側へ取り付ければ問題ありません。
曲線がきつい場合は当社が指定する両面接着材を使用し、スペーサーを作成すると設置可能です。

【作動後の復旧方法 注意点と手順】

感震ブレーカー作動後の復旧方法(注意点)

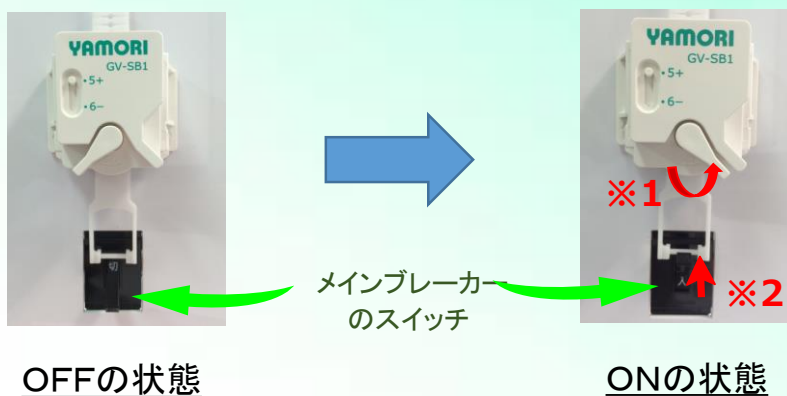
1. 建物が全壊や半壊となった場合には復旧しないで下さい。
2. 通話可能な電話と使用可能な消火器を用意して下さい。
3. 復旧作業は日中に2名以上で行って下さい。
4. 電化製品のコンセントを全て抜いてください。

チェックをしないとこんな事に



感震ブレーカー作動後の復旧方法(手順)

- ・最初に、分電盤の**子(分岐)ブレーカー**を**全てOFF**にします。
- ・次に、**【ヤモリ】**のレバーをロックされるまで右側に捻り**ON**にします。**※1**
- ・**【ヤモリ】**がセットされている**メインブレーカー**を**ON**にします。**※2**
- ・最後に、安全を確認しながら子(分岐)ブレーカーを1つずつ**ON**にします。



★漏電ブレーカーは、ONの状態に戻す時にリセットしないとスイッチが戻らないタイプがあります。ご注意下さい。(リセットとは、リセットボタンを押しながら又は一度押してから戻す、或いはスイッチを一旦下げきってから戻すなど)